

山梨県 桃の会

会報 第105号

小さな喜び・・生きる潤滑油

ちょっとした人の優しさに触れ嬉しいと感じ、感謝できたり
おいしいものを食べてああ! おいしいと感じ
美しいものを見て美しいと感じ、心洗われる
好きな音楽を聴いて楽しいと感じたり素晴らしい! と感動する



頭で組み立て考えることではなくて
自然に沸き上がる本能ともいえる感情
だからその小さな喜びは生きるための潤滑油となり
大きな力となり「生きる」ことを
いつの間にか助けてくれていたと感じる
その感性の扉はいつも全開にしておきたい

出会う、つながる、わかちあう

K H J 全国ひきこもり家族会連合会 山梨支部

HP <https://momonokai.org> e-mail meri-sannokuni@softbank.ne.jp

ピア Voice

孤立、孤独がもたらすもの

5月下旬、長野県でとても胸の痛む事件が起きた。

4人の命が理由もなくあっという間に奪われたことは何と無念なことだろうか。

まず4人の方のご冥福を深くお祈りしたい。

この事件で痛感したことは孤独、孤立の怖さである。

犯人の行動、言動から人間としてのバランスを崩してしまっていて、感情は怒りのみしか働かなくいるように思える。人としての感情が機能不全に落ちいてブレーキが効かなくなっている状態ではないだろうか。

「ひとりぼっち」ということばにとっても敏感に反応することからも十分伺えることができる。

犯人の家族は日常生活の中で息子の生き辛さについて話しを聞く機会は無かったのだろうか・・・

何か息子の変化、孤立に気付かなかったのだろうか・・・私にはそれがとても悔やまれる。

何故ならお亡くなりになった方は被害者であることは勿論だが、加害者も被害者に思えて仕方がないのだ。彼を本当に理解しようとする人がいなかったことが彼を確実にどんどん孤立に追いやってしまいそのたった一人の孤立、孤独があっという間に多くの人を巻き込んで苦しみ、悲しみが拡散してしまったからだ。

5月のミニグループトークの報告の「家族について」でもお伝えしているが、意思の疎通が伴った

「やりとり」が家族の中で必要なのだ。意見の相違があっても「私はこう思う」とお互いが自由に本音の話しが出来る場所=家族を必要としていることを声を大にして言いたい。

そうでなければこれから益々このような悲しい事件が起きると思うからである。

私たちにとって他人事ではないと感じている。

(hiroko san)



＊ ＊ あなたにとって家族とは ・ ・ ミニグループトークより

自分にとっての家族とは ・ ・ 普段改めて考えないことかもしれませんが日常の中で一番身近な存在であるから家族の中で私たちはいつも大小様々な問題にさらされていると思います。それらを問題と捉え意識するのか、なかったことにするのかで、家族の有り様はかなり違ってくるように思います。

今回は自分の育ちの源、「家族」を考えて見ました。



「家族が一番大切なもの・家族は味方」という意見について

家族を大切にすることとはどういうことでしょうか。

「家族は味方」という言葉からは、何か問題が生じた時の理解者、協力者で強い味方であるという一方で、家族だから同じ方向性の考え方を強いる、NOが言えない、「家族だから」に縛られてしまう響きがあると思います。家族が一番大切であると言える根底には、本音のやり取りが出来るかどうか、意見が違っていてもマイメッセージを伝えられる自由があるか ・ ・

そういう中で一人一人違う存在を認め合い尊重できたらと思います。

「家族は自分にとって心の糧でありたい」

重大な問題が生じた時本当にお互いを支え合える場所が家族であればそれは生きる為の心強い力になることでしょう。強くそうありたいと願いますが残念なことに皆さんのお話しから伝わってくるのは家族の中に会話(やりとり)が段々なくなりつつあることです。

家族がバラバラ、自分の居場所がない、話しをしても続かない ・ ・ という内容から十分伺えます。

家族は自然に出来上がるものではないと思います。作りあげていくものでその為の努力が必要だと考えると、根気よく話し合いお互いの違いを感じつつも相手を理解しようすることが安心で安全の居場所となるはずです。

中身のない空虚な家族から心の糧となる家族になるためのハードルはかなり高いのですが、私たちにはすでに問題が投げかけられていて話し合うべきチャンスは与えられているのです。

家族に意思疎通を持ったことばのやりとりは今、本当に必要とされていると思います。

＊ ＊ 兄弟姉妹グループ ・ ・ 10年ぶりにきょうだいと話しができました！

家族だからきょうだいもきょうだいのことを案じます。しかし世間体や怠けているという考え方もきょうだいの中では強くある場合もあり、きょうだいとの関係を避けるケースも多いのです。

今回ごきょうだいと10年ぶりにお話しができた方はちょっとしたトラブルの原因がお話しするきっかけになったようです。弟さんは思ったよりしっかりしてお父さんや家のことを考えてくれていたようです。

きょうだい間で相談しやすい関係を日頃から作っておくことも大事なことです。

両親亡きあとの孤立、孤独死だけは避けたいと思うのです。



当事者 Voice



▶ **当事者スペースの報告** 5月21日(日) 13時~15時 ぴゅあ総合2F小研修室2

参加者：当事者・経験者(6名) 初参加者(1名) 桃の会関係者(1名)

*スペースにおける内容

今回はぴゅあ総合2階の小研修室を会場に当事者スペースを開催しました。


チェックインをして、今回初参加をしてくれた方から少しお話を伺いました。

近況やこれからしていきたいことや思いを話していただきました。

ひきこもり支援の団体から桃の会へお知らせがあり、タケノコ掘りイベントを6月に開催すること
ことで、それについてのお知らせをしました。関連して土いじり、草取り、農業などの話もしました。

また、感動すること、感じ入ること、魂を揺さぶられるように感じる体験の話などをしました。また、
近況やその時のエピソードなども出されました。

*世話人たちの感想(今回は1名)

5月23日の読売新聞の社説に「ひきこもり支援」~本人や家族を孤立させぬよう~が載ってありました
限られた内容の中に、「外部との接触に慣れてもらうには、地域の居場所づくりがカギになる」と
ありました。外部との接触に慣れてもらえるだけでもスペースもやって良かったと思えば、スタッフ
としては心軽く運営ができます。ちょっとしたことで、良かったと感じられる、前向きに捉えられる
ようになる、などを心掛けてゆる~り、ゆるりとやっていきたいと思えます。 報告 米長 



テーマトーク報告書 5月13日(土) 福祉プラザロビー

◎テーマ『当事者が求める“支援”』

◎参加人数：7名(当事者4名 親2名 他1名)

いつもお世話になっております。スタッフのたきざわです。

今回のテーマトークでは、話題が話題なだけあり、当事者の皆さんから沢山の気持ちが聞けました。

その中で多く共通しているのは、“精神的な支えがほしい”ですね。 そうですね・・・確かに・・・

どんなに現実問題が解決しても、一人一人の心を置き去りにしては、支援の意味が無いのでは・・・と

僕は常々考えております。そして更に言うと、支援には終わりが無いということです。

関わる頻度は減ったとしても、決してその人を離してはならない。

今の僕が思う本当の“支援”とは、こうではないかと思えます。



＊ ＊ 改めて思い考える。父子（おやこ）の向き合い方。

僕は、親に八つ当たりしたり、喧嘩をしたりとか、自分の気持ちをぶつける様な真似は全くと言っていいほどしてこなかった。

それは親父も然りで、家族“だった”ときも、お互いにどこか孤独でした。

話し合いとか、そういうのがとてつもなく苦手な一族だからだ。

親父は誰よりも真面目に仕事に取り組む人間だということは幼少期から知っていた。

ちょっと破天荒なところもあって、孤独でありながらも自らの意思で行動をする…そんな親父は僕にとって、まさに自由の象徴なのだ。それに気づいたのがつい最近のこと。

というのも今年の4月、8年ぶりに親父と再会したから不思議と驚くことはなく安心感がこみ上げてきた。今まで、家族に対してこんなにもホッとしたことは無かったと思う。

親と子、遠く離れてやっと理解できる気持ちがあるということを感じた。理屈ではない。

しかし一方で、蘇るように嫌な思い出がフラッシュバックする。

何故自分は独り取り残されたのか…

ホントはもっと、親父を責め立てあの時に味わった辛く悔しい思い全てをぶつけたかったのかもしれないそう、僕らは家族として、なにも変わってなどいないのである。

この8年の間、“父子(おやこ)という”時間がずっと止まっていて、再会と同時に時計の針が動き出したような…そんな戸惑いのような感覚を憶えた。だからこそ、僕は親父と改めて向き合っていきたい。一緒に居られる時間をもっと大切にしたい。

隣り合って歩ける家族がいることは、とても幸せなことかもしれない。



＊ ＊ 6月の活動日程

- ▶ 当事者スペース 6月18日(日) 13時～15時 ぴゅあ総合小研修室1 参加費無料
フリートーク・・・日々の出来事や感じたこと、様々な想いを自由に話します。
- ▶ テーマトーク 6月10日(土) 13時～15時 福祉プラザロビー 参加費無料
テーマ 『フリーテーマ』 お申込み不要です

桃の会 6月の活動



6月はミニグループトーク、当事者スペース、テーマトークを行います

今年も半年が過ぎようとしております。例年より早い気温の上昇で草木の伸びも早いように感じます。季節の変わり目ですが皆様如何お過ごしでしょうか。

6月は桃の会が10年目を迎えるにあたり一回目の講演会を開催します。

今回は桃の会の活動のきっかけとなりその後も背中を押し続けて下さった記者のお一人

山梨日日新聞社の前島文彦氏にご講演頂きます。是非多くの皆様のご参加をお待ちしております。

▶ ミニグループトーク 6月18日(日) 10時～ ぴゅあ総合小研修室 1 一家族 ¥500

※会場をご確認ください!! ↑ 当事者無料

講演 テーマ「ひきこもり支援、この10年」

講師 山梨日日新聞社社会部長 前島文彦氏

10年前の9月、県立図書館ホールに100人あまりの方々が集まり、息の詰まるような熱気と助けを求める必死の想いが渦巻く光景は今も目に焼き付いて忘れられません。

その一連の流れを作りその後も「ひきこもり」の実態を広く投げかけて下さった

山梨日日新聞社の方々の力は後進県と言われる山梨に変化をもたらすものでした。

今回は新聞記者として様々な地域と人を取材された前島文彦記者に広い視野からひきこもり支援の今までとこれからについてのお話しをお伺いできればと思います。

* * 今回 講演後はグループトークは行いませんが短い時間、意見交換が出来ればと思います。

御礼 皆様にはいつも御支援 ご協力を有難うございます。

新年度を迎え新たに年会費を納めて下さった方々に御礼を申し上げます。

今後もどうかご協力ご支援を宜しくお願い申し上げます。

◆ 7月の予定 ミニグループトーク 7月16日(日) 10時～ ぴゅあ総合

当事者スペース 7月16日(日) 13時～ ぴゅあ総合

テーマトーク 7月10日(土) 13時～ 福祉プラザロビー



募集しています!! 皆さんの声を募集しております! 日々の想いやちょっとした出来事など大歓迎です。

どうぞお気軽に桃の会事務局のメールアドレスまたはFaxでお送りください。お待ちしております。

お問い合わせ 桃の会事務局 e-mail / meri-sannokuni@softbank.ne.jp 090-6190-8677 篠原

TEL&FAX 0266-78-3742 篠原 / Tel 0551- 47- 4040 080-9400-4187 井口